

事務事業名	特別支援に係る専門家派遣事業				担当	健康福祉部 保育課 保育所				
政策名	2	「笑顔づくり」～安心と元気アップ!～				☐ 総重（総合計画重点事業）	☐ 総新（総合計画新規事業）			
施策名	1	子育て支援の充実				☐ 戦拡（総合戦略拡充事業）	☒ 戦新（総合戦略新規事業）			
関連個別計画	真岡市まち・ひと・しごと創生総合戦略				事業期間	☐ 単年度のみ				
法令根拠						☒ 毎年度実施（開始年度 令和2 年度～				
予算科目	1.一般会計	3.民生費	2児童福祉費	4保育所費		☐ 期間限定複数年度（ 年度～ 年度）				
予算科目										
予算科目										
事業概要	公立保育所（真岡、中村、西田井、物部）において、特別な支援を要する児童に対し適切な保育を提供するため、臨床心理士及び作業療法士を各保育所に派遣し、支援を要する児童の行動観察、保育士への助言・指導及び必要に応じて保護者面接等を実施。 4 保育所に臨床心理士を月1回、年11回、合計で44回派遣。 4 保育所に作業療法士を年間2回、合計で8回派遣。									

1. 現状把握の部 (1) 事務事業の目的と指標

① 手段（主な活動）					④活動指標（事務事業の活動量を表す指標）の推移						
5年度実績 臨床心理士及び作業療法士を公立保育所に派遣し、支援を要する児童の行動観察、保育士への助言・指導及び必要に応じて保護者面接を実施。 公立4保育所に臨床心理士を年間計44回、作業療法士を8回派遣。 午前中は、児童の行動観察を行い 午後、保育士への助言・指導及び必要に応じて保護者面談を実施。 全体研修会を各保育所1回実施。 6年度計画 昨年度と同様に臨床心理士及び作業療法士からの指導内容を適切に保育業務に活用していく。					名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
					ア 臨床心理士派遣	回	48	47	48	44	44
					イ 作業療法士派遣	回	—	—	—	8	8
					ウ						
					エ						
					オ						
					② 対象（誰、何を対象にしているのか）*人や自然資源等 特別な支援を要する児童					⑤対象指標（対象の大きさを表す指標）の推移	
					名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
					ア 保育所からの相談児童数（延べ人数）	人	97	92	93	92	93
					イ 臨床心理士から助言・指導を受けた児童数（延べ人数）	人	46	46	46	33	42
					ウ 作業療法士から助言・指導を受けた児童数（延べ人数）	人	—	—	—	2	2
					エ						
					オ						
					③ 意図（この事業によって、対象をどう変えるのか） 保護者や関係機関と連携を図り、児童が少しでも集団生活や支援を軽減できるように保育及び成長を促す。					⑥成果指標（対象における意図された対象の程度）の推移	
					名称	単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)	6 年度(見込)
					ア 行動に改善が見られた児童の割合	%	100	100	100	100	100
					イ						
					ウ						
					エ						
					オ						
					(2) 総事業費の推移		単位	2 年度(実績)	3 年度(実績)	4 年度(実績)	5 年度(実績)
投入量	事業費	財源内訳	国庫支出金	千円	339	331	300	300	600		
			県支出金	千円	165	160	150	150	300		
			地方債	千円	0	0	0	0	0		
			その他	千円	0	0	0	0	0		
			一般財源	千円	684	672	750	750	300		
	事業費計（A）			千円	1,188	1,163	1,200	1,200	1,200		

目的妥当性評価	①政策体系との整合性 市の政策体系に結び付き、社会環境や住民ニーズ等を考慮した上で目的は妥当か？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 支援を必要とする児童が集団生活になじんでいけるよう成長を促すことは、「子どもを産み、育てやすい環境の整備」に結び付く。
	②公共関与の妥当性 市が事業に関与する必要があるか？	☒ 見直し余地はない ☐ 見直し余地がある (評価理由) 子育て支援に合致した事業であり、市が実施する事業である。
	③対象と意図の妥当性 ・1枚目の②「対象」③「意図」は適切か？ ・対象を限定・追加する必要があるか？ ・意図を限定・追加する必要があるか？	☒ 対象・意図を見直す必要はない ☐ 対象を見直す必要がある ☐ 意図を見直す必要がある (評価理由) 特別な支援を要する児童を対象とし、対象児童が集団生活になじんでいけるよう成長を促す事業であり適切である。
有効性評価	④成果の向上余地 ・成果を向上させる余地はあるかどうか？ない場合の理由は適切か？ ・成果の現状水準とあるべき水準の差異はないか？ ・何が原因で成果向上が期待できないのか？	☒ 向上余地はない ☐ 向上余地がある (評価理由) 専門家からの指導・助言を保育業務に活かしており、向上余地はない。
	⑤類似事業との統廃合・連携の可能性 ・類似事業はないか、統合や連携はできないか？	☐ 類似事業と統合・連携ができる (類似の事務事業名：) ☐ 類似事業と統合・連携できない (類似の事務事業名：) ☒ 類似事業はない (評価理由) 類似事業はない。
効率性評価	⑥事業費の削減余地 ・成果を下げずに実施主体の見直しによりコスト削減をできないか？ ・実施方法の適正化によりコスト削減をできないか？	☒ 削減余地がない ☐ 削減余地がある (評価理由) 各保育所への臨床心理士派遣が年11回と作業療法士派遣が年2回で最低限の実施回数であり、事業費の削減余地はない。

(1) 改革の方向性（改革案・実行計画） ☐ 廃止 ☐ 見直し（☐：目的妥当性 ☐：有効性 ☐：効率性） ☐ 統合 ☒ 継続 特別な支援を必要とする児童の保育も多様化しており、その児童にあった保育の専門性が必要とされている。現在、派遣を行っている臨床心理士及び作業療法士の派遣による助言と指導を受けることで、保育の専門性が高まり、保育士の資質向上に寄与していると考えられる。	(3) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td style="text-align: right;">／</td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="text-align: left;">／</td> <td style="text-align: right;">／</td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○	／	低下		／	／
				コスト																		
		削減	維持	増加																		
成果	向上																					
	維持		○	／																		
	低下		／	／																		
(2) 課題、課題の克服の方向性																						

(1) 1次評価結果の客観性と出来具合 ☐ 記述説明不足(説明責任不充分) ☐ 評価内容が客観性を欠く ☒ 評価内容は客観的と言える		(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
					コスト																		
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(2) 2次評価者としての評価結果 ①目的妥当性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ②有効性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり ③効率性 ☒ 適切 ☐ 見直し余地あり		(5) 改革・改善による期待成果 <table border="1" style="width: 100%; border-collapse: collapse; text-align: center;"> <tr> <th colspan="2" rowspan="2"></th> <th colspan="3">コスト</th> </tr> <tr> <th>削減</th> <th>維持</th> <th>増加</th> </tr> <tr> <th rowspan="3">成果</th> <th>向上</th> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <th>維持</th> <td></td> <td>○</td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> <tr> <th>低下</th> <td></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> <td style="border: 1px solid black;"></td> </tr> </table>			コスト			削減	維持	増加	成果	向上				維持		○		低下			
					コスト																		
		削減	維持	増加																			
成果	向上																						
	維持		○																				
	低下																						
(3) 2次評価者として判断した今後の事業の方向性 ☐ 廃止 ☐ 休止 ☐ 目的絞込み ☐ 目的拡充 ☐ 事業統廃合 ☐ 事業のやり方改善 ☐ 予算削減 ☐ 予算増大 ☒ 現状維持(従来通りで特に改革改善をしない)	(4) その他2次評価会議で指摘された事項 																						